

## 令和元度 学校評価 集計の結果と来年度への取り組み

たむら支援学校

今年度の学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、以下の通りご報告いたします。保護者及び学校評議員の皆様には、お忙しい中ご協力をいただき誠にありがとうございました。

今回の結果を受け課題となる項目については、担当部署を中心に学校全体で改善に向けて具体的な方策を検討し、次年度の計画と実践に生かして参ります。

また、今年度は中学部・高等部の生徒を対象に学習や学校生活に関するアンケートを実施しました。生徒からの意見についても丁寧に対応して参ります。

【評価基準】	【回答者数】
A とてもよくできている、とてもよくあてはまる	(小学部)保護者 34人 教員 26人
B よくできている、よくあてはまる	(中学部)保護者 9人 教員 9人
C あまりできていない、あまりあてはまらない	(高等部)保護者 26人 教員 21人
D できていない、あてはまらない	《評議員5人》 《保護者 69人》 《教員56人》 《合計 130人》

**取り組みの柱(1) 「ことばの力」に視点を当てた、「わかる」「できる」「いきる」授業づくりを行います。**

①個別の指導計画を基に、各教科等の指導を工夫し、体験的な活動を取り入れながら、児童生徒の主体的・対話的な学びの場を設定します。

質問1 学校は、個別の指導計画を基に、各教科等の指導を工夫し、体験的な活動を取り入れながら、児童生徒が主体的に取り組む場面や学習活動を設定していますか？

質問1		A	B	C	D
学校全体	保護者	52	16	1	0
	評価割合	76%	23%	1%	0%
	教員	29	27	0	0
	評価割合	52%	48%	0%	0%
学校評議員(5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

質問2 学校は、児童生徒が他者とのかわりを通して思いや考えを伝え合い、自分の考えを広げ深める対話的な学びの場面や活動を設定していますか？

質問2		A	B	C	D
学校全体	保護者	39	28	1	0
	評価割合	57%	41%	1%	0%
	教員	21	25	10	0
	評価割合	38%	45%	17%	0%
学校評議員(5人)		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

※無回答(保護者1名)

②自立活動の視点に基づいた言語環境を整えます。

質問3 学校は、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導目標や指導内容に基づき、「ことばの力」を育成するための環境を整えていますか？

質問3		A	B	C	D
学校全体	保護者	41	27	1	0
	評価割合	60%	39%	1%	0%
	教員	26	29	1	0
	評価割合	46%	52%	2%	0%
学校評議員（5人）		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

③教員同士が学び合う研修を実施し、教員の専門性の向上に努めます。

質問4 学校は、児童生徒が「できる」「わかる」「いきる」授業づくりのために、教員同士が学び合う研修を実施していますか？

質問4		A	B	C	D
学校全体	保護者	37	29	2	0
	評価割合	54%	43%	3%	0%
	教員	29	25	2	0
	評価割合	52%	45%	3%	0%
学校評議員（5人）		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

※無回答(保護者1名)

### 取り組みの柱（1）

#### 【分析】

全ての項目において「A」または「B」評価が80%以上となり、概ね良好な評価となりました。

質問2については、教員の17%が「C」評価としており、さらに対話的な学びの場面や活動の設定の工夫が必要であると考えています。

質問4については、保護者及び教員の「C」評価が3%であることを踏まえ、教員の研修が授業づくりにどのように反映されているか検討し研修のもち方を工夫するとともに、その取り組みの様子を丁寧に説明する必要があると考えます。

#### 【今後の取り組み】

- 児童生徒が他者とのかかわりを通して思いや考えを伝え合い、自分の考えを広げ深めることのできる対話的な学びの場面や活動を積極的に取り入れた授業づくりを行います。
- 自立活動が各教科等の学びの土台となっていることを踏まえ、各教科等の指導を含めた学校の教育活動全体を通して、児童生徒一人一人の「ことばの力」を的確に捉え、育成するための環境を整えるとともに、コミュニケーション能力を高める取り組みを進めていきます。
- 今年度小・中・高等部で積極的に授業を公開し、実施後の考察会を行いながら、研修を深めてきました。今後も継続して取り組み、そこで得られた課題や授業改善に向けたアイデアを共有し、授業づくりに生かしていくとともに、研修等の様子をホームページや通信等でお知らせしていきます。

#### 【生徒のアンケート結果から】

生徒からは、「学校の授業は分かりやすく、学習や活動に一生懸命に取り組んでいる」との回答が多く得られました。その中で、「自分の気持ちや考えを伝えることが難しい」と答える生徒もいました。今後も児童生徒が思いや考えを伝え合うことのできる学びの場面や活動の設定に努めます。

取り組みの柱(2) 「自分のよさ」に気付き、学んだことを生活にいかすことができるよう「生活にいきる力」を育てます。

④「児童生徒のよさ」を明確にした個別の教育支援計画と「学びの履歴」を明確にした年間指導計画を基に、指導の充実を図ります。

質問5 学校は、「児童生徒のよさ」を明確にした個別の教育支援計画と「学びの履歴」を明確にした年間指導計画を基に、指導の充実を図っていますか？

質問5		A	B	C	D
学校 全体	保護者	45	24	0	0
	評価割合	65%	35%	0%	0%
	教員	22	26	8	0
	評価割合	40%	46%	14%	0%
学校評議員(5人)		2	3	0	0
		40%	60%	0%	0%

質問6 学校は、児童生徒が「自分のよさ」に気付き、学んだことを生活にいかしたり、社会の一員として活動したりできるようにするための取り組みをしていますか？

質問6		A	B	C	D
学校 全体	保護者	43	25	1	0
	評価割合	62%	37%	1%	0%
	教員	19	32	5	0
	評価割合	34%	57%	9%	0%
学校評議員(5人)		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

⑤安心・安全な環境を整えるとともに、健康・安全指導及び生徒指導の充実を図ります。

質問7 学校は、児童生徒が安心・安全な学校生活を送るための環境を整えていますか？

質問7		A	B	C	D
学校 全体	保護者	48	20	1	0
	評価割合	70%	29%	1%	0%
	教員	34	21	1	0
	評価割合	61%	37%	2%	0%
学校評議員(5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

質問8 学校は、児童生徒の発達段階に応じて健康・安全指導及び生徒指導を行っていますか？

質問8		A	B	C	D
学校 全体	保護者	48	19	2	0
	評価割合	70%	27%	3%	0%
	教員	30	25	1	0
	評価割合	53%	45%	2%	0%
学校評議員(5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

⑥社会生活にいきる力を育てる「キャリア教育」の充実を図ります。

質問9 学校は、児童生徒が自分のできることや得意なことを生かして積極的に活動ができるような力を身に付けるための指導をしていますか？

質問9		A	B	C	D
学校	保護者	43	24	2	0
	評価割合	62%	35%	3%	0%
全体	教員	23	30	3	0
	評価割合	41%	54%	5%	0%
学校評議員（5人）		2	3	0	0
		40%	60%	0%	0%

質問10 学校は、児童生徒の自立と社会参加に向け、働くことの大切さや働くために必要な力について児童生徒が知ったり理解したりする学習を行っていますか？

質問10		A	B	C	D
学校	保護者	43	23	3	0
	評価割合	62%	33%	4%	0%
全体	教員	22	33	1	0
	評価割合	39%	59%	2%	0%
学校評議員（5人）		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

## 取り組みの柱（2）

### 【分析】

全ての項目において「A」または「B」評価が80%以上で、概ね良好な評価となりました。

質問5については、教員の14%が「C」評価としており、試行段階である「学びの履歴」について、検討を重ねていく必要があると考えています。また、質問6については、教員の9%が「C」評価としており、「社会の一員として活動」する生徒の姿の共通理解を図りながら、さらに具体的な取り組みを進める必要があると考えています。

質問8の健康・安全指導及び生徒指導については、保護者の3%が「C」評価としており、特に「生徒のマナーやルールの指導」へのご意見が寄せられました。今後も家庭及び地域と連携しながら、児童生徒の発達段階に応じた指導を丁寧に行っていきます。

質問9・10のキャリア教育の推進については、質問9は保護者の3%及び教員の5%、質問10は保護者の4%が「C」評価としています。児童生徒一人一人の目指す姿やキャリア発達について共通理解を図りながら、さらに発達段階に応じた取り組みを進める必要があると考えます。

### 【今後の取り組み】

- 学びの履歴の内容や評価の仕方について、小中高の学びの連続性を踏まえて検討するとともに、学びの履歴を活用して各教科等の目標・内容を明確にした年間指導計画を作成し、指導の充実を図っていきます。
- 危険箇所の有無を確認し、学校安全マップを作成して全職員で情報を共有しています。今後も、児童生徒が安心して安全な学校生活を送れるよう定期的に点検や見直しを行い、情報の共有を密にしていきます。また、引き続き、施設・設備の整備を進め、教育活動の充実を図ります。
- 保健・安全に関する各計画の見直しを行い、各教科等の年間指導計画に位置付けながら、児童生徒の実態に応じた指導を丁寧に行っていきます。

- 日常生活でのマナーや交通ルール、人間関係等について、家庭や地域と連携しながら、児童生徒の実態に応じて適切に指導を行っていきます。
- 社会参加と自立に向けて、児童生徒一人一人の目指す姿やキャリア発達について共通理解を図りながら、段階的・継続的にキャリア発達を支援し、発達段階や実年齢、環境の変化等に応じたキャリア教育の取り組みを推進していきます。

【生徒のアンケート結果から】

「働くための学習」について、生徒全員が「A」または「B」の評価としており、中学部、高等部ともに働くことへの意識が高まっていると考えます。今後も、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、社会生活にいきる力を育てます。

**取り組みの柱（3） 保護者や地域と共に歩む学校を作ります。**

⑦保護者や関係機関と連携した個別の教育支援計画の活用を図ります。

質問 11 学校は、保護者や関係機関と連携した個別の教育支援計画を活用するための方法について分かりやすく説明をしていますか？

質問 11		A	B	C	D
学校 全体	保護者	41	24	4	0
	評価割合	59%	35%	6%	0%
	教員	22	34	0	0
	評価割合	39%	61%	0%	0%
学校評議員（5人）		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

⑧地域支援センター「ゆめここ」を拠点として、校内外の支援体制を整えます。

質問 12 学校は、校内の児童生徒が学校生活や家庭生活において、悩んでいることなどがあつた時に、保護者の相談に応じたり支援を行ったりしていますか？

質問 12		A	B	C	D
学校 全体	保護者	38	28	3	0
	評価割合	55%	41%	4%	0%
	教員	33	23	0	0
	評価割合	59%	41%	0%	0%
学校評議員（5人）		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

質問 13 学校は、地域の幼児児童生徒の保護者や学校関係機関等の依頼に応じて相談や情報提供、研修支援を行ったりしていますか？

質問 13		A	B	C	D
学校 全体	保護者	37	28	4	0
	評価割合	53%	41%	6%	0%
	教員	32	24	0	0
	評価割合	57%	43%	0%	0%
学校評議員（5人）		2	3	0	0
		40%	60%	0%	0%

⑨地域の資源を有効に活用し、交流及び共同学習の充実を図ります。

質問 14 学校は、地域の資源を有効に活用し、交流及び共同学習の充実を図っていますか？

質問 14		A	B	C	D
学校 全体	保護者	42	24	3	0
	評価割合	61%	35%	4%	0%
	教員	28	24	4	0
	評価割合	50%	43%	7%	0%
学校評議員 (5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

### 取り組みの柱 (3)

#### 【分析】

全ての項目において「A」または「B」評価が80%以上で、概ね良好な評価となりました。

質問11～13については、教員の評価が「A」または「B」である一方、保護者の4～6%が「C」評価としています。個別の教育支援計画については、さらに児童生徒一人一人に応じた活用の仕方を保護者ととも確認していく必要があると考えます。また、地域支援センター「ゆめここ」を拠点とした相談や研修支援については、今後も校内外の依頼に応じた支援の充実に努めるとともに、その取り組みについて積極的に発信していく必要があると考えます。

質問14の交流及び共同学習については、保護者の4%、教員の7%が「C」評価としています。近隣学校との交流や地域での交流、居住地校交流など、児童生徒の実態に応じた交流及び共同学習の在り方について検討し、さらに充実を図っていきたいと考えています。

#### 【今後の取り組み】

- 個別の教育支援計画の活用について、個別懇談等を通して保護者と十分に共通理解を図るとともに、各市町村の教育支援ファイル等に綴り込み、活用を図るなど、さらに児童生徒一人一人に応じた支援ツールとなるように活用の仕方を保護者ととも確認していきます。
- 開設2年目の地域支援センター「ゆめここ」を拠点として、校内外の支援体制を整え、依頼に応じて相談や研修支援等を行いました。また、学校見学会を4回実施し、多くの参加者を得て本校への理解を深める取り組みを進めてきました。今後も校内外の依頼に応じた支援の充実を努めるとともに、その取り組み等の情報をホームページや地域支援センターだより等を通して発信していきます。
- 本年度、小学部、高等部に加え、中学部においても地域の中学校との交流をスタートし、交流及び共同学習の機会を積極的に設けました。各学部における学校間交流の充実を図るとともに、さらに地域の資源を活用したり、児童生徒の居住地域全体に本校の良さを伝えたりする取り組みを工夫し、交流及び共同学習の充実を図っていきます。

#### 【生徒のアンケート結果から】

多くの生徒が「A」または「B」の評価となっていました。その中で「困っているときに相談したい」という意見も聞かれました。今後も児童生徒一人一人の気持ちや言葉をしっかりと聞き、丁寧に対応していきます。また、「交流及び共同学習が十分に実施できなかった」という意見がありました。様々な学びの場面や活動において、交流及び共同学習の機会となるような活動の工夫を行いながら、社会性や豊かな人間性の育成に努めて参ります。

